



将棋の藤井聡太くんに見る集中力

園長 間嶋 哲

世の中は、空前の将棋ブームです。将棋の最年少棋士、中学校三年生の藤井聡太四段がデビュー戦から負け知らずで、歴代単独1位となる29連勝を達成したからです。

先日の竜王戦の実況中継を、私も息子と一緒にネットで拝見していました。「すごいなあ」と思いつつ、教育者の端くれとして「どうすると、このような人物が輩出するのかなあ」ということに自然と興味が惹かれました。もちろん「天才だから」と言ってしまうかもしれませんが、おそらく、このように育った要因は、何か必ずあるはずですよ。

様々な報道によると、将棋を始めたのは5歳のとき、つまり幼稚園児のときからだそうです。両親は将棋のことは全く分からず、おばあちゃんから教わったらしいです。祖父母の影響というのは、意外と大きいのかもかもしれません。

私事ですが、今から18年前、小学校2年生を担当していたとき、生活科で将棋を教えたことがありました。ほとんどの子どもは、将棋を知りませんでした。まずは、自分のオリジナル将棋駒を紙で作らせ、ルールを少しずつ教えた上で対戦させたのです。やはり、ルールがある遊びで、勝ち負けがはっきりとしている知的な遊びというのは、子どもを夢中にさせるものです。休み時間中も友達とやっている姿が目立ちました。当時、将棋にはまってしまった男の子のお母さんから、「先生、教えてくださったのはありがたいのですが、それ以来、すっかり勉強しなくなって…」という苦情(?)もいただきました。そのお母さんが考えている勉強とは、単純に漢字や計算なのです。そのとき私は、「少しくらい勉強しなくなっても大丈夫。勉強以上に、勉強になりますから。」と言い放ったことを、昨日のように覚えています。彼は...その後、千葉大学医学部に進みました。目先の漢字や計算よりもっと大切な勉強が、実は考えることであり、集中力をつけることなのです。

藤井君の話に戻します。彼が通った地元の幼稚園は、『モンテッソーリ教育』を推進していたらしいです。モンテッソーリという人は、20世紀前半に活動したイタリアの精神科医で、「遊びを仕事として取り入れる教育法」を推奨した人です。その教育法は、日常生活の練習、感覚教育、言語教育、算数教育、文化教育の5分野に分かれ、多くの知育教材を使う特徴があります。これらがなぜよいのかと言えば、それらの知育教材によって、子どもの集中力を自然に鍛えられるからです。藤井君のご家族の話では、これまでの快進撃を支えてきたのは、遊びや普段の生活を通して小さい頃から培った集中力だそうです。やはりそうかという思いです。ちなみに調べてみると、オバマ前米大統領はじめマイクロソフトのビル・ゲイツや、Facebook創業者のマーク・ザッカーバーグも『モンテッソーリ教育』を受けていたとか。

当園も、様々な遊びを通して知的好奇心や探究心を養う経験を積み重ねていきたいと思えます。